

## 進捗報告（実行団体）

- 提出日：令和4年11月4日
- 事業名：外国人住民のためのうなん暮らし支援事業
- 資金分配団体：公益財団法人うなんコミュニティ財団
- 実行団体：うなん多文化共生まちづくり協議会

### ① 実績値

#### 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
外国人住民や外国にルーツのある子どもが居住地区の交流センターなどを利用。日本語サロンなど地域の活動に参加している。	参加した対象者の人数	参加者総数30人	2023.02	事業開始から167人	1
外国人住民が防災訓練や日本語サロンでの防災学習会などに参加している。	参加した対象者の人数	参加者総数20人	2023.02	事業開始から35人	1
外国人住民が日本語サロンなどの参加により、地域活動の情報を得ている。	参加した対象者の人数	参加者総数30人	2023.02	事業開始から134人	1
日本人住民が外国人支援に関わる活動（「日本語サロン」や「やさしい日本語講座」、「外国人のための防災訓練」など）に参加している。	参加した対象者の人数	参加者総数20人	2023.02	事業開始から146人	1

日本人住民や関係者が多文化共生啓発に関する学習会やセミナーに参加したり、 <del>多文化共生啓発ホームページにアクセスしている。</del> 多文化共生啓発ホームページができあがっている。	参加した対象者の人数、 <del>ホームページがある</del>	参加者総数 50人	2023.02	事業開始から 25人	2
---	----------------------------------	-----------	---------	------------	---

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
3.(任意) 活動に関する報告
○外国人住民が活動に継続的な参加することにより、参加の姿勢や気持ちに変化が見られた。  例1) 日本人と離婚後、地域で孤立している外国人女性のケース 昨年度は「支援対象者」として料理教室やイベントに声掛けをした。スタッフ以外の他の参加者との交流や対話は見られなかったが、今年度は自ら参加の意志を表明し、積極的に雰囲気盛り上げたり交流を行う姿が見られた。  例2) 雲南市在住10年以上の外国人女性(日本人配偶者)のケース 昨年度までは「友達ができない」「つながりが無い」といった声が聞かれ、イベント参加時にも遠慮がちな様子が見られたが、今年度に入り、島根県主催の人権フェスへの参加を表明。他のイベントにも積極的に参加するようになり、「活動に参加するようになって雲南生活が楽しくなった」と感謝のメールが届いた。

例3) 来日半年の外国人女性(日本人配偶者)のケース

毎回活動に参加をしているが、どちらかというとな受け身の姿勢であったが、「防災」をテーマに学び、実際に被災した地域を説明を受けながら歩くことで防災意識が高まり、活動内容を母国に向け SNS で発信。防災に関する活動の必要性を伝えていた。

例4) 雲南市在住10年以上の女性(日本人配偶者)のケース

過去の受診経験により市内の病院への不信感が強く、これまで長い間受診を避けていたが、雲南病院ツアーに参加し医師と直接対話を行い気持ちを伝えたことで気持ちが変化。安心感をおぼえ、今後は受診を考えている。他の外国人住民のために定期的な病院ツアー等生活オリエンテーションの必要性を関係者に伝えた。

○日本人住民が協議会の活動以外の場(地域)で外国人住民と関係性構築したり、サポートする事例が出てきた。

例1) 協議会の活動に参加している日本人住民が来日まもない外国人住民を自宅に招き、悩みを聞いたり励ましたりした。

例2) 協議会の活動に参加している日本人住民が、車がない外国人住民のために、送迎をサポートしたり、盗難にあった自転車を一緒に探したりした。

○協議会の活動に参加、協力することで関係機関の視点に変化がみられた。

例1) 協議会の病院ツアーに参加した医師が、直接対話することにより外国人住民の困りごとや悩みを聞き、今後の病院の診療等に関し、展望を示した。

例2) 協議会の活動で外国人住民と直接対話することにより、警察や市防災部や観光の関係者等のやさしい日本語への意識が高まった。

例3) 外国人住民の体作りを依頼した市内の事業所が、打合せ当初は市内の外国人住民の事情を知らず、実態と違う提案(運動会や高齢者との交流等の実施等)が多くあったが、対話(打合せ)を重ねることで外国人住民の状況を理解し、当日は参加者に必要な活動を伝える言葉(やさしい日本語)で実施してくれた。

○活動団体の意識の変化

元々は外国人住民の生活の向上のための活動として外国人住民のために雲南省のツアー（生活オリエンテーション）を始めたが、関係機関とツアー内容を詰める作業そのものが関係機関に外国人住民の状況を理解してもらう非常に大切な啓発の機会であることがわかった。開始当初は外国人住民への認識や理解のズレに苛立ちを感じることもあったが、やさしい日本語の必要性や外国人住民の状況を伝える重要な機会だと考えるようになった。

○その他

これまで、日本語指導等のサポート対象だった外国ルーツの子どもが、協議会の活動へボランティアとして参加する意思を示し、色々な場面で活躍してくれた。（中高生2名）

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況

- 自団体のウェブサイトに表示している    広報制作物に表示している  
報告書に表示している    イベント実施時に表示している    その他  
→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：

2. 広報

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

ホームページ作成中

3.報告書等

3. イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

○日本語サロンの実施（R3年7月～/全28回） 参加者：144名（日本人58、外国籍の大人：73、外国籍の子ども：6、外国ルーツの子ども7）

○雲南ツアーの実施（全7回） 参加者：110名（日本人35、外国籍の大人：54、外国籍の子ども：8、外国ルーツの子ども13）

○日本人向け勉強会・啓発活動の実施（全7回） 参加者：87名

○外国人向け防災学習会（全2回） 参加者：20名（外国籍の大人：19 外国籍の子ども1）

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）